

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472201647	事業の開始年月日	2003. 2. 1
		指定年月日	2003. 2. 1
法人名	特定非営利活動法人 偕老会		
事業所名	偕老ホーム		
所在地	(252-0824) 藤沢市打戻1896番地		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年8月20日	評価結果 市町村受理日	平成26年1月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者それぞれの能力に応じた役割を持つこと、動くことを尊重し、日々の暮らしの基本となる、家事活動、季節の行事、地域の行事、に参加することで元気になれます。そして家族や地域の方々のご理解と協力があることで穏やかに暮らせることを感謝し、入居者と職員とで、テラスオープンカフェ”すまいる”を開設、小学校のおはようボランティアの社会貢献を行っています。ここからまたたくさんの繋がりができています。また10年が過ぎ入居者の方の重度化に伴い、終末期の介護も増えてきています、主治医と連携したくさんの事を学びながら、介護の場で家族とともに看取りを行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年10月15日	評価機関 評価決定日	平成26年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 偕老ホームは、小田急江ノ島線、長後駅西口からバスで15分、最寄バス停から徒歩2分ほどの緑に恵まれた住宅街にある。近くには、昔ながらの個人商店、ドラッグストア、市民センター、小学校などがあり、利便性に優れた生活空間となっている。開所当初からの利用者が4名、6年以上の方が7名在所する、開設10周年を迎えたグループホームである。 【職員の情熱と介護の質の向上】 利用者の高齢化が進み、介護量も増す中で、「いつまでもおいしい食事を口からとってもらいたい」「自力で歩いてもらいたい」「湯ぶねに肩まで浸かってもらいたい」など、職員の具体的な思いを、介護のアイデアや改善に結び付けている。「ミキサーの使用を止め、すり鉢で摂食・嚥下の低下した利用者個々の固さに合わせる食事作り」「洗面の後に遠回りをして着席する筋力維持運動」「浴室へのリフト設備の導入」などは、ほんの一例である。 【地域での役割の拡大】 事業所テラスを開放して行われる第3日曜日の「テラスオープンカフェすまいる」と介護相談は4年目に入った。利用者も職員と共に元気に接客している。事業所の駐車場スペースで開催される8月の納涼祭は、多くの地域ボランティアや利用者家族に支えられ、地域の定例行事として認知されている。また新たな試みとして、市の子育て支援のプログラムであるトワイライトステイ事業を受託し、放課後の小学生などを事業所で預かっている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	偕老ホーム
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・フロアー・スタッフルームに揚げ、毎朝申し送り時に唱和し、共有するように努めている、また理念に基づいたケアサービスの提供に取り組みをしている	5項目からなる理念は、事業所の利用者支援のあり方を表している。特に1項目目の「あるがままの受け入れ」は利用者のみならず、家族、職員にも共通の理念である。お互いにあるがままを見せ合い不足するところは補いあって、喜怒哀楽を共にして日々の生活を送りたいとしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している、自治会活動も町内会に加入し、回覧板をまわすなど、日常的に行なっている、また毎日商店街へ買い物に行き、近隣の方々と顔なじみになり、挨拶を交わしている。町内会の祭りに参加や清掃のゴミ拾いを行っている。市民文化祭や地区の収穫祭にも参加にし、地域のお年寄りの集まる公園体操にも週に一回参加し、交流を図っている。小学校の運動会にも出かけている。小学校のおはよう運動も三年目入り、道ですれ違えば子供達が挨拶をしてくれる要になり、遊びにも来ている。小学校と連携しこども110番の看板を玄関に掲げている。	町内会に加入し、地域の総合防災訓練、地域清掃を始めとする行事に積極的に参加している。市民文化祭では今年も3曲の歌や踊りを披露する。小学校のおはようボランティアでは、利用者も毎朝8時から校門に立っている。週1回の公園体操に参加している。もと利用者家族を含めた多くの地域ボランティアに支えられながら事業所を運営し、利用者、職員が地域住民と気楽に声を掛け合える関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回開いているオープンカフェになるだけ多くの方に来てもらい、ホーム、入居者の様子を知ってもらえるよう努めている。そのカフェに認知症相談所を設けている。職員が講師となり地域で認知症サーポーター講座を開いている。毎年秋に市民センターで行っている文化祭が中止になったため、偕老ホームとして地域のサークルのみなさんに参加の呼びかけをして一緒に音楽祭を行った。偕老ホームの10周年記念事業でも市民センターにて地域の方々と共に催しを行った。		

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動報告や地域の方からの情報も頂き、意見交換を行なっている、また行事等にも参加して頂きサービスの実際を見て頂いている。出された意見は、職員会議等で報告し話し合うようにしている	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、町内会長、老人会長、民生委員、家族代表、もと利用者家族、利用者などの参加の下、2ヶ月に1度開催している。利用者の状況や事業所の運営報告の他、地域行事の協力体制など、参加メンバーの発言も活発で、事業所と地域の双方向的会議となっている。外部評価の結果もこの場で報告され討議されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政は運営推進会議に参加、市内のグループホーム連絡会に参加して情報の共有を行っている。小規模連携事業研修では案内の配布や参加者の取りまとめを協力してもらっている。本年度からは子育て支援の一環として、トワイライトステイ事業の委託が実現した。	市のグループホーム連絡会に参加し連携を深めている。市の相談員の受け入れを行っている。県の小規模事業所連携事業の補助を受け、介護・高齢サービス、障害サービスなどと共同で研修や職員採用活動を行っている。御所見保健福祉ネットワークに参加し、介護教室に講師を派遣している。今年は市のトワイライトステイ事業を受託した。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進モデル施設事業所の指定を受けた。その後研修修了者を中心に、ホーム内の全職員へ勉強会を実施し、さらに毎月の勉強会でも学び合うよう取り組んでいる。身体拘束の自己点検チェックシートを使い、どんなことが拘束にあたるのか確認している。毎年研修に参加して、それを勉強会に反映している。身体拘束マニュアルをワーカールームに設置、どんな状況においても拘束のないケアに努めている。玄関の施錠はしていない。身体拘束もしていない。	身体拘束廃止の取り組みを県で発表し、身体拘束廃止推進モデル施設の指定を受けた。自己点検チェックシートに項目を設け、確認し合っている。毎月テーマを決めて研修を行っている。ユニットの出入り口、ベランダへの出入り口、玄関共に日中は施錠していない。車いすの利用者は食事、休息の時は、いす、ソファに移乗している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修で学ぶ機会はある自己点検シートを使い職員各自行い、どんなことが虐待なのか、職員間で確認し防止に努めている。また困り具合や気になることをお互いに出し合い、全員全体の問題として話し合い、虐待に繋がらないように気をつけ、常に職員の質の向上および連携と統一ケアに努めている		

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数人は成年後見制度を利用している方もいる。また手続きしている方もいる、家族には機会があるごとに話しているが、現状では家族間の関係性は良く、必要性は感じていないが、今後も制度について情報提供はしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に細かいことでも、相談し丁寧に説明を行っている、入所時に関わらず、常時気軽に何でも尋ねて頂けるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より家族とは気軽に話せる雰囲気があり、来訪時には入居者の様子やケアのあり方を話してオープンにしている、またご意見や要望を言えるように働きかけている。毎月相談員の方が来訪し、入居者の方へ聞き取りをしているので細かい事でも即実行している	家族ボランティアとしての協力、行事への参加も多く、意見、要望を気軽に言い合える関係を築いている。何事もオープンに話し合うこととしており、職員の手が足りない時は、手伝ってもらうこともある。家族会を年2回開催している。家族間の連帯感も強い。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何事もオープンにしている、管理者はいつでも職員の意見や提案を聞き入れるてくれる機会をもってくれる。	ケアプランチーム、地域連携チーム、排泄チームなど8つのチームを設け、職員はどれかに所属し、サービスの改善に自主的に取り組んでいる。職員はユニットごとに「かえでノート」「ひばりノート」という気付きノートに、サービスや運営に関する意見や提案、気付き、個人的な悩みなどを書き込み、職員間で共有している。チームリーダーは内容をまとめ、必要に応じ、サービスへの反映に結びつけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるように各自が個人目標を定め、モチベーションが上がるような環境を作っている。また管理者は労働時間の短縮を図るために、業務を効率的にするように努めている		

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修を積極的に行っている、毎月の勉強会は題材がより身近なもので即実践に役立ちとても有効的である、外部研修者は勉強会で報告し、情報の共有に努め、報告書も回覧している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会に参加することで交流が出来る。県や市の連絡会に参加して交流している。お互いの行事等に入居者と共に相互訪問している。他事業所と連携し研修会を行い、お互いに学び・刺激になり質の向上に繋いでいる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と担当職員で入所前に自宅訪問し、本人の思いや生活歴等を聞き取り、職員間の情報を共有し、入所されてからの共通会話ができるようにしている、またできるかぎり入所前に体験入所していただき、関係作りに努めている。特に入居者の力を活かして活動に参加を促し仲間作りの支援をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い意向を聞き、双方が納得する迄話し合っている家族の困りごと、望んでいることを聴き、認知症状とケアのあり方、介護疲れを労う、見学や体験時、入居者の方と共に会話していただきながら暮らしの状況を説明している。家族の入居させることの負い目と不安を軽減できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は経験豊富な職員が対応する、また固定した職員が常に側にいるように努め、自由に過ごしてもらい、本人が必要としている支援を見極め、ケア会議を行い統一ケアで本人が安心して居られる環境に努めている、家族には常時様子を細かく伝え、安心するようにしている		

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本意を尊重し、できること、できないことを見極めお互いに支え合える関係作りに努める 利用者職員と暮らしを共にする事で喜怒哀楽を共に味わっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも気楽に来られる様な雰囲気作りに努めている、また来所の折には状況を伝えている 行事等で家族と関わりをもつ機会も多く、情報交換ができ、信頼関係も築けている。いつも家族も協力的である		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や孫・ひ孫さんも良く訪問しているが、高齢になるとなじみの関係が薄れてくるが、職員と共に地域に出かけることで、新たになじみの関係ができています	地元の商店での買物、馴染みの理美容での整容、公民館の教室への参加などを支援している。友人の来訪も多い。小学校との交流、ボランティアとの関係づくりなど、新たな馴染みづくりにも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者一人ひとりのよい所を伝え、共に仲良く暮らすための関係性作りのために、日々の役割作りや行事等を通して、仲間作りの環境に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事にボランティアとして参加していただいている。カフェに寄ってくださる、近所で逢ったときは話をしている。また運営推進員として参加して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を尊重し、まずは本人の思いを聞き取る、意思表示できない方は、日頃の言動、表情等により推し測り理解するように努力している、ケアプランにのっとり、職員間で統一ケアで、”その人らしく”日々支援するよう努めている	日々の利用者との係わりの中で、利用者の思いや意向を聞いている。誕生日は希望をかなえる日とし、イベントや外食に結びつけている。意向を表すことが困難な利用者については、表情から読み取るなど意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やライフスタイルは把握しているが入居後も家族や本人からの情報を職員間で共有し、職員・家族と共にその人らしい暮らしができるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできることに、わかること、支援を必要としていることを職員間で出し合い見極める努力をしている、今日の気づきを申し送り時や記録することで、情報を共有し、より良いケアができるように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いを尊重したケアができるように、本人へ希望を聞くことや家族の思いも聞き、ケアプランへ挙げている、ケア日誌記入時、プランに即したケアを行ったかの評価を毎日行っている。変化があった場合には側対応ができるように、ケアカンファを行い、変更内容を赤ペンで修正しケアに繋げている	介護計画書は、通常6ヶ月に1回の見直しを実施しているが、短期目標と連動して記載されるケア日誌により、常に評価に結びつけている。毎月開催されるケア会議は、欠席する職員も含め、事前に意見をメモなどで提出している。家族の意向、主治医の指示を取り入れた介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌には変化があったとき、注意事項、ケアの変更があったときなどには、見落としが無いように、赤ペンでラインを引き、また職員ノート等へ記録し情報の共有を図っている		

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に対して家族や社会的資源・地域資源・他事業所の協力により柔軟に支援している。特に個別を尊重している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日近隣へ買い物に出かけ近隣の方と挨拶を交わしている。町内会に加入し、回覧板を回し、ゴミ当番、ゴミ拾いに参加している。また地域の行事や小学校の運動会等見学、小学生達の来所してくれた。毎朝小学校の正門前に立ちおはようの声掛けボランティアも継続している。公民館文化発表会が台風で中止になったため、偕老ホームが地域の方に呼びかけて秋の音楽祭を実施した。農協祭りやかわせみ収穫祭や偕老ホームの10周年記念事業、納涼会に地域のサークル（子どもフラダンス、和太鼓、盆踊り、ケーナやギター演奏）の方々の協力を頂き、地域の踊ったり、演奏や踊りを楽しんだ。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で入居前のかかりつけを継続している方もいる。通院が困難になった場合や家族の希望で訪問医を利用されている方もいる。緊急を要する場合は家族の意向を尊重し、受診時も同行している。	協力医は、月1回、全利用者を診る日と、個別診療の日とに分け、ほぼ毎日来訪している。また24時間オンコール体制をとっている。入居前からのかかりつけ医に2名の利用者が家族対応で通院しているが、その都度、受診情報は聞き取っている。また必要により、担当医に医療情報を提供している。訪問歯科医の治療もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制はとっていないので看護職員はいない。管理者が利用者や家族の状況を理解しており、必要に応じて家族や医師との連携し適切な受診ができるよう配慮している。訪問医とはオンコールで直に相談ができる。		

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は情報提供を行い、家族と共に治療経過を聞く、入院中の問題や退院時に退院後の指導がある場合には、病院へ出向き十分な打ち合わせを行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル加算はとっていない。高齢で持病があり認知症状がある方々で、急性期であれば入院し治療するが、入退院の繰り返しをする事で状態が低下していくことを、目の当たりにすることで、家族の選択はホームにすることが、本人が落ち着いている、最後は病院ではなく、ホームで過ごすことを希望されるようになってきた。家族と訪問医、管理者と何度でも話し合い、その意向を踏まえ、職員間でも繰り返しカンファレンスを行いながら、看取りケアを主治医と家族と連携している。	契約時に「看取り介護に関する指針」を提示し、家族と方針を共有している。事業所での看取りを望む家族が増えており、対応例も数例ある。看取りの後の振り返りを重点的に行っている。また家族からの感謝やねぎらいは職員の誇りになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全員が救命救急の研修を受けている。応急手当・緊急時の対応マニュアルは作成し周知している、また入居者の既往歴、服薬、連絡先、保険証情報を記載した個別カードを作成し外出時は持参し活用している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月入居者と職員は避難訓練を行い、年2回は消防署や業者の協力により、通報・消火・非難訓練を実施している。また地域の総合防災訓練にも参加している、災害時の必要物品も準備している	消防署立ちあいの防災訓練を年2回実施している。夜間想定訓練、消火訓練も行っている。利用者参加の下、自主避難訓練を毎月行っている。地区の介護、保育、障害施設合同で行う「地域の総合防災訓練」に参加している。災害備蓄は職員分も含めて7日分の飲料水・食料、衛生用品、カセットコンロ、毛布、ヘルメットなどを準備している。	

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はその方の特徴を捉え人格を尊重しながら、それぞれが分かりやすい言葉で対応しているが、関係性が近くなると忘れがちになることもあり、職員間で注意しあっている、個室に洗面所とトイレが着いているので、排泄時のプライバシーは守れている。関係書類については鍵をかけ管理している	利用者個々に役割を持っているが、無理強いすることはなく、その時々のお気持ちを大切にしたい支援を心掛けている。利用者個々に応じた言葉掛けを行っており、不適切な場合は職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に主体は入居者であることを理解しているので、本人がどうしたいか問いかけ自己決定ができるようにしている。細かい事では毎日の飲み物や食べたい物があるか尋ねたり、買い物時希望があれば、取り入れている。また誕生日には本人の希望を実現するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースに合わせるのではなく、一人ひとりのペースを把握し尊重している、また役割を持ち、動くことを大切に、押し付けでない生活の支援を心掛けている、その結果を感謝の意を伝えることにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた時はすぐに取り替えるようにしている。毎日下着の交換を行い、衣服の汚れ・臭いには配慮している、自分で洋服を選ぶことができない方が多数だが、特に外出や行事のときはその方の好みのものを用意している、理・美容は行きつけの所へ同行している、困難な方には近所の理容師の方へ毎月来て頂いている、行事等では化粧をすることをしている		

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを食べることが一番楽しみにされているので、毎日何が食べたいかを尋ね、好みのもの、新鮮で旬のものを味わえるようにしている。美味しいものを食べると元気でいることを実感している。毎日買い物に出かけ、食べたいものを選んでもらう、三食とも入居者と共に調理、盛り付け、片付けを行い、職員も一緒に食べて楽しく会話をしている。誕生日にはその方の好みのものを取入れている。外食時には自分で食べたいものを選んでいく。しかし常食が摂れなくなった方には、その方に合った形態食が必要になり、ミキサーを使用すると味が落ちる、水ぽくなるなどから試行錯誤し、すり鉢を使用することで、形態の変化ができ、味も変わりにくい、またすり鉢を当るのは元気な入居者の方が根気強く上手にでき、お互いさまの協力と役割が生まれた。	献立の決定、食材の買出し、食事づくりから後片付けまで、利用者と職員が共同で行っている。また職員も同じテーブルにつき、同じものを語りながら食べている。誕生日には、その利用者の好みの食事を提供する。またバイキングや外食なども楽しんでいる。摂食、嚥下が低下した利用者には、すり鉢を使用した食事や上新粉のおかゆを提供するなど、味の落ちない工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口から新鮮で自然なものを摂ることを基本としている、また1人ひとりの食べる量を把握し栄養バランスのとれた食事に配慮している、食事量の少ない時は補食し、高カロリーのを摂取している、水分量は最低1500ccを摂れることを目指し、嚥下困難な方は形態を個別に変えながら、飲み込みのよい、好みのもの等々工夫し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれの状況に応じて、声掛けや見守り介助を行っている。義歯洗浄管理も必要に応じて行なう、訪問歯科医からの口腔ケアの指導を受けるなどで、口腔ケアの向上から訪問回数が減少している。		

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者が重度化することにより、排泄に掛かる時間が増加してきた、個々の排泄パターンを把握し、オムツにしない様に努め、トイレでの排泄や皮膚トラブルを減少するためにも、通気性を良くするため、パットとパツで対応し日中は全員がトイレでの排泄に努めている、失敗があったときには、プライバシーに気をつけ、入浴、清拭や洗浄を行うようにしている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。重度化してもオムツをしないよう努め、トイレでの排泄を基本としている。夜間は睡眠を優先し、オムツで過ごす利用者もいる。居室にトイレがありプライバシーが守られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行うと共にできるだけ自然排便につながるように、食材には食物繊維の多いものや乳製品を使用、野菜ジュース等飲み物や水分量にも気をつけている、散歩や買い物等で運動を促すなど日中の活動にも気をつけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に応じた支援を行っている、好みの温度や時間など、声をかけるタイミングも重要である、場合によってはシャワー浴 足浴 清拭になることもある ゆず湯 菖蒲湯は好評である。重度化により、入浴が困難となり、双方に負担が掛かるようになってきたので、入浴用のリフトを設置し、不安感や危険防止に二人で介助している。	回数、時間帯は希望により柔軟に対応している。毎日入浴する利用者もいる。入浴を好まない利用者には、無理強いせず、関わり方を工夫して促している。浴槽は両側から介助できるように配置されている。2階の浴室には、リフトが設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	重度化し、体力的に休息が必要な場合は、個々に合わせ休息を入れているが、夜間の睡眠に影響しないよう、日中の活動と休養のメリハリに努めている。寝衣の更衣、リネン類の清潔、空調管理等気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方指示通りの支援を行い変更があったときは、効き具合の様子観察し医療に繋いでいる、また誤薬防止のため、二日分を配薬ポケットにいれ、スライドしていくことで他者が確認することができる。主治医の判断のもとで重度化していくと服薬の見直しを行い、一時中止して様子を見る事で、効果があることを経験している。		

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を活かし、ひとり一役の役割作りを行っている、ホーム内外の行事に参加、その他外食、外出など定期的に行い気分転換を図っている、個別ケアで本人の望むことが実現できる様努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員が毎日戸外へ出かけることができなくなってきたが、少しでも外気浴に触れられる様に、テラスで過ごす工夫をしている。元気な方々は日常的に外出支援を行なっている、買い物、季節ごとの行事を計画し、家族も参加している、家族やボランティアの協力で、今年のバス旅行は小田原への旅を満喫した、地域の行事にも参加している。最近はお案内が来るようになってきた。	車いすの利用者も含め、天候が良い日は、毎日散歩や買物を楽しんでいる。戸外へ出ることが難しい利用者は、テラスで日光浴をするなど、外気に触れる機会をつくっている。毎日のおはようボランティア、週1回の公園体操、小学校行事への参加、地域行事への参加、バスを利用した小旅行、月1度の外出イベント、外食など様々な外出機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃の金銭の管理をきちんとできる方は少なく、外出するときや買い物に出かけたときには、その方の能力に応じて、支払いをしてもらっている、預かり金に関する取り扱い方法が決められている、月末には領収書を沿え報告している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症状が重度であり、自ら電話をかけたたり、手紙を書くことを望まれる方は少ない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いた季節の花を生け、外出や行事の写真を貼り、玄関や、フロアではソファや畳コーナーを作り、季節ごとの飾りで生活感や季節感を採り入れて、和むように雰囲気作りを工夫して、ソファで転寝をし、自由に好きな場所で過ごせている	リビングは広々としており、組み合わせにより様々な形状になるテーブルやソファが配置されている。また大きな調理台があり、複数の利用者、職員と一緒に調理できる。玄関には利用者が作った季節感ある紙細工などが飾ってある。随所に、日常の生活の様子や事業所内外の行事の写真が飾ってある。	

自己評価	外部評価	項目	1Fひばり 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにはベンチを置き、外気浴をしたり、陽の当たる窓際には畳やソファを置き、日向ぼっこをされている。またテレビの前にもソファをおいて、くつろげる居場所を作り、それぞれ好きなどころで過ごしている、疲れた時はみんなの声が聞こえるように、ソファで横になり休養をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などはできるだけ自宅で使われていたものを持ってきて頂き、配置も同じようになるように工夫している、部屋の場所は分からないが部屋の中へ入るとここだと分かり安心されている。	引き戸のドアに、浮世絵や北斎画などの暖簾を下げ、個性的な居室である。利用者は馴染みのものを持ち込み、居心地良く暮らせる空間となっている。またトイレと洗面台が設置されている。床に布団を敷いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、自室にはトイレ洗面台が付いて、手すり、入り口は引き戸である、歩行が困難であるからすぐに車椅子にするのではなく、手すりの使い方や声掛けを行い自由に歩行している。職員は転倒に気をつけて、歩行が継続できるように、入居者の能力に応じたの支援を行っている。		

事業所名	借老ホーム
ユニット名	楓

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・フロアー・スタッフルームに掲げている。毎朝申し送り後に理念を唱えている。理念に基づいたケアに取り組んでいる。新人教育時に、管理者が理念の意味を分かり易く説明し、ケアに繋げるよう話している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している、自治会活動も町内会に加入し、回覧板をまわすなど、日常的に行なっている、また毎日商店街を買い物、近隣の方々と顔なじみになり、挨拶を交わしている。町内会の祭りに参加。清掃のゴミ拾いを行っている。市民文化祭や地区の収穫祭へ参加にしたり、小学校の運動会にも出かけている。小学校のおはよう運動も三年目入り、道ですれ違えば子供達が挨拶をしてくれる。小学校の子供達が遊びに来ている。地域のお年寄りの集まる体操へも週に一回参加し、交流を図っている。学校と連携しこども110番の看板を玄関に掲げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ毎日出かけることで、理解していただけるようになって来た、月1回開いているオープンカフェにも多くの方に来てもらい、ホーム内や入居者の様子を知ってもらえるよう努めている。カフェでは認知症相談所を設けている。職員が講師となり地域で認知症サーポーター講座を開いている。毎年秋に公民館で行っている文化祭が中止になったため、偕老ホームから地域のサークルのみなさんに呼びかけて参加してもらい音楽祭を行った。偕老ホームの10周年記念事業でも市民センターホールにて地域のみなさんに参加してもらい催しを行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を行っている。事業所の現況報告、実際に行事に参加してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内のグループホーム連絡会に参加して情報の共有を行っている。小規模連携事業研修ではチラシの配布や参加者の取りまとめを協力してもらっている。市町村からの委託を受けて、子育て支援に協力することが実現した。		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進モデル施設事業所の指定を受けた。研修修了者による、ホーム内の勉強会にて全職員も学びに取り組んでいる。身体拘束の自己点検チェックシートを毎年2回行い、どんなことが拘束にあたるのか確認している。毎年研修に参加して、それを勉強会に反映している。身体拘束マニュアルをワーカールームに設置し、どんな状況においても拘束のないケアに努めている。玄関の施錠はしていない。身体拘束もしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の自己点検チェックシートを毎年2回行い職員一人ひとりどんなことが虐待か確認している。毎年研修に参加して、勉強会に反映している。虐待防止マニュアルをワーカールームに設置している。日頃から職員間で言葉の虐待についても注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援して	成年後見制度について勉強会を毎年行っている。昨年5月に入居された、入居者は制度を利用されているので活用できるよう日々努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・	丁寧に説明を行っている、入所時に関わらず、常時気軽に何でも尋ねていただけるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月相談員の訪問を受け入れ、入居者の意見を代弁して頂いているので改善すべき事はすぐに対応している、家族に日常的に意見が言えるような雰囲気にも努めている、また家族会において意見を聞くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行われている職員会議があり、職員で提案話し合いする機会あり反映されている。NPO法人として社員が意見や提案を言える理事会在が年2回開催されるので、その場で反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	大変な仕事であるから、やりがいを持って働けるように就業環境の整備には常に努めている。内外と毎月の勉強会は、即実践に役立つ物を取り入れている。給与や労働時間、人材は社会的には十分に至っていないが向上心を持って働けるように各自が目標を定めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や毎月勉強会を実施している。他に研修情報は随時提供し、受講を勧めている。経験年数や習熟度に応じて研修を受けている。研修を受けた者は再確認のために勉強会で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や県・市の連絡会に参加して交流を図っている。認知症実践者研修の研修生、リーダー研修の研修生の受け入れをしている。研修生が来ることで他者を知り、そこから多くの方がホームへ来てもらい良い勉強となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	3名入所された。入所前に管理者がご本人に聞き取りをし、見学、体験をしてもらい入所している。入所後3ヶ月は担当をきめ集中的にケアを行い、ホームでの生活に一日も早く慣れて貰うよう努めている。家族や親戚の方が来た時、入居者のことを聞き取り職員間で情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて相談にこられた時や、電話で問い合わせを受けた時に、家族の困りごと望んでいることを聞き、認知症状とケアのあり方、介護疲れを労う。預けることによる家族の負い目や思い、意向を聴き、ある家族とは、入居待機時一年かけて関係づくりに努めた。ホームページを適宜更新しているが、それをみて偕老ホームの様子を知り連絡、相談される方がこのところは多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前入所された方は近い血縁の方が近くにいいため、長い付き合いの幼馴染の家族と後見人として、入所までには何度も話し合い、今までの暮らしを続けられるように、都度話し合った。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る力を少しでも引き出し、一緒に何でもするように努めている。家事を共にする中で暮らしの知恵や習慣を教わり、郷土料理や漬物作りなどを一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や電話連絡のときに、本人の様子を家族に伝えている。行事等に参加し、家族会もあり家族間で情報収集、親睦を深めている。職員を労ってくれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人や親戚の方の訪問や電話、手紙などが届いている。毎日行く商店では顔なじみになり挨拶したり会話を楽しんだりしている、馴染みの理容院に行く人もいる。特に馴染みの場所や人がいる入居者には、それらの関係がなくならないように行きつけの商店街に一緒に行ったり、1人で行ってもらい途切れない支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は個々の役割作りに配慮している。入居者同士がお互いの食事の配膳、下膳をしたり、入居者同士手を差し伸べたり、行事の時はお互い協力してくれる。重度化し、年齢差もあり難しいと感じることもあるが、入居者同士支え合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約が終っても運営推進委員のメンバーとして残ってもらい、今での関係を大切にしている。また行事ではボランティアをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどのように暮らしたいか、日常生活を通して聴き、言葉で表現できない方は表情や行動で希望、意向の把握に努めている。誕生日には本人の希望を実行してる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やライフスタイルなど聞いている、入居後も家族や本人の情報を職員間で共有し、経験を活かした役割作りを支援し、その人らしい生活が出来るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの生活リズムを把握している。できること、わかること、支援を必要としていることを見極めるように努めている、また記録や情報を共有することでより良いケアに繋ぐようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づいた支援を行い、変化があった場合には打ち合わせ時やミカンファレンス・ケアカンファレンスを行い即ケアに繋げ、入居者が困らないようにしている。毎日のケア記録に短期目標が実施されたかの、評価を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌および業務日誌等へ記録し、情報を共有している、変化時には送り欄を活用し、介護計画の見直しが必要な時は、ケアカンファレンスにて話し合う。ケア日誌にはプランのチェックランを設け、モニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に対して家族や地域資源・他事業所の支援により柔軟に支援している。訪問診療、訪問歯科、訪問マッサージ、音楽療法、アニマルセラピー、訪問理美容、ボランティアによる外出支援等行っている。新しい入居者が在宅で鍼の先生にかかっていたので、そのニーズを取り入れ継続している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々の協力で、毎日近隣へ買い物に出かけ近隣の方と挨拶を交わしている。またなじみのお店には入居者みでの買物に協力して頂いている。町内会に加入し、回覧板を回し、ゴミ当番、ゴミ拾いに参加している。また地域の行事や小学校の運動会等見学、小学生が運動会の踊りを披露しに来所、小学校の正門の前に立ちおはようボランティアも行っている。登校日の朝、入居者と一緒におはようと子供達に呼びかけている。公民館文化発表会でのふれあいステージに参加した。偕老ホーム主催の音楽祭、10周年記念事業、納涼会に地域のサークルの方（子どもフラダンス、和太鼓、盆踊り、ケーナやギター演奏）と一緒に踊ったり、演奏をしていただいた。		

自己評価	外部評価	項 目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療機関を利用されている方と家族の希望により訪問医を利用されている方がおり、医療・家族と情報を共有し連携している。緊急を要する場合は協力病院へこだわらず、家族の意見を尊重し受診時同行している。訪問診療の主治医とはオンコールで直に相談ができるので非常に安心している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制はとっていないので看護職員はいないが管理者が利用者の状況により医療との情報提供を行い適切な受診ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	平成26年6月に入院された方は、救急だったが、職員が付き添い入院先の医師にこれまでの経過と様子を説明した。入院した場合は情報提供を行い、家族と共に治療経過を聞く、また入院計画書を見せていただいている、入院中も様子を見に何度も出掛けている、退院時は退院後の指導がある場合には、病院へ出向き十分な打ち合わせを行う		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化して、入退院を繰り返すようになる、ホームの方が落ち着き、最後までここに居たいとの希望が多くなってきた事もあり、ターミナルケア指針を家族に提出した。それぞれの家族の意見を受け止め、平成26年7月には家族と共に入居者を看取った。家族からは職員に労いの言葉を頂いた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・緊急時の対応マニュアルは作成され職員勉強会で確認している、また入居者の既往歴、服薬、連絡先、保険証情報を記載した書類を持参し活用している。救急救命法の研修を受講し、勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月入居者と職員は避難訓練を行い、年2回は消防署や業者の協力により、通報・消火・避難訓練を実施している。また地域の総合防災訓練にも参加している。地域の施設の種別を越えた福祉災害ネットワークに参加し、定期的に情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉掛けに注意し小声で話したり、それぞれに伝わりやすいような会話に努め、個人的な話は自室にて行うようにしている。自室にトイレ洗面所があるので、プライバシーが保てる、不具合がある場合は職員間で注意しあう、関係書類は鍵のかかるようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に主体は入居者であることを理解している。食べたい物、出掛けたい場所等どうしたいか問いかけてから自己決定している、決定できない方はいくつかの選択肢の中から選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもあるように入居者のあるがままを受け入れることを基本にしているので職員側の都合で無理強はしない、一人ひとりの意思や体調を確認しながら、その方のペースで生活できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その場に合った服装、特に外出や行事のときは注意している、お化粧を促したり、理容は行きつけの所へ行く、困難な方には美容師の方へ毎月来て頂いている		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを食べることが一番の楽しみにされているので、毎日何が食べたいかを尋ね、好みのもの、新鮮で旬のものを味わえるようにしている。美味しいものを食べると元気でいることを実感している。毎日買い物に出かけ、食べたいものを選んでもらう、三食とも入居者と共に調理、盛り付け、片付けを行い、職員も一緒に食べて楽しく会話をしている。誕生日にはその方の好みのものを取り入れている。昼食はいつもバイキングにして、できるだけ自分で取り盛り付けを行ってもらう。時には外食や誕生日会、四季の行事のものを取り入れ、共に作り、ゆったりと食べている。嚥下困難な方には、入居者ごとに形態が違うので、すり鉢を使うと味も損なわれにくく、美味しく食べていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多くの食材を使い、栄養バランスを考えている、水分量や食事量は記録をとり、不足している場合には、補食や形態を変えるなど対応しているまた好みのものを用意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれの状況に応じて、声掛けや見守り、介助を行っている。痰をうまく出せない入居者にはスポンジブラシを使い痰取りを行っているが、食事前にも痰取りをしてから食事を摂ってもらっている。必要に応じて訪問歯科医からの口腔ケアの指導を受けることもある。		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、オムツにしない様に努め、皮膚トラブルがあることや通気性からパットとパンツで対応し日中は全員がトイレでの排泄に努めている。入居者によっては1時間おきの誘導、時間を見ての声掛けと誘導を行っている。失敗があったときには、プライバシーに気をつけ、清潔に努め入浴、清拭や洗浄を行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行うと共にできるだけ自然排便につながるように、多くの野菜が摂れるような食事や乳製品、野菜ジュース等飲み物や日中の活動にも気をつけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に応じた支援を行っている、好みの温度や時間など、声をかけるタイミングも重要である、場合によってはシャワー浴 足浴 清拭になることもある ゆず湯 菖蒲湯は好評である。重度化により、入浴が困難となり、双方に負担が掛かるようになってきたので、入浴用のリフトを設置し、不安感や危険防止に二人で操作している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力的に休息が必要な方は本人の希望でベッドやソファで休んで頂いている。夜はしっかり眠れるように、日中の活動で身体を動かし、安眠につながるよう、また午前中に光を浴びてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の知識については職員全員が十分理解してはいないが、管理者の指示の基、薬の管理、誤薬防止、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている、二日分を用意する事で他者が確認できることや非常時の持ち出しが出来る様にセットしている		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を活かし、おやつ作り、郷土料理を教える、生ジュース、コーヒーを入れる、得意な縫い物を行う、掃除を行う、買物に出かける、食器洗い、拭きを行う、散歩に行く等々それぞれの役割を支援している、今では自ら役割を決め、自ら動く方もいる。また外出は積極的に行い気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ全員が毎日戸外へ出かけることに努力している。買い物、季節ごとの行事を計画し、家族やボランティアの協力で今年はリフトバスにて小田原への旅行を満喫した。重度化してなかなか外食が難しくなっていたが、店のマイクロバスが迎えに来てくれる所を選び全員で外食に出かけた。地域の行事にも参加しており、機会あるごとに案内が来るようになった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃の金銭の管理をきちんとできる方は少ないが、外出するときや買い物に出かけたときには自分の財布を持って行き、支払いをする方もいる、食材の買物時にも支払いをして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書が届いたときや荷物が届いたときは返事を書くように勧めたり、また電話を希望されることもある、家族や知人からの電話の取次ぎもおこなう		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いた季節の花を生け、外出や行事の写真を貼り、玄関や、フロアでは季節ごとの飾りで生活感や季節感を採り入れて、和むように雰囲気作りを工夫している		

自己評価	外部評価	項目	2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽の当たる窓際には畳やソファを置き、日向ぼっこをされている。配膳台近くにソファをおいて、みんなが食事作りをする様子を見て雰囲気を楽しむ場所を作り、それぞれ好きなところで自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みのもを持ってきて頂いている、場合によっては本人と共に求めに行くこともある。何年か暮らすうちに、自分の居室とわかり安心している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、自室にはトイレ洗面台が付いて、手すり、自室の入り口は引き戸である、今できることが少しでも継続できるように、職員は入居者のできること、わかることを奪わないように努めている		

目 標 達 成 計 画

事業所名

偕老ホーム

作成日

平成27年1月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	636	身体拘束・虐待防止モデル施設として、現在の状況を見直したところ、入居者に対する言葉が、慣れ親しみ過ぎて節度が保ず、尊厳を持った声掛けがきちんとできていないのではないか	日常の利用者と職員のコミュニケーションのとり方を振り返り、入居者本意を中心としたコミュニケーションに努め、更なる尊厳あるケアを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の勉強会の前に10分間の振り返りを行う ・チェックリストを年4回行う（5・8・11・2月） ・具体的な言葉遣いの一覧表を作成する 	H27. 2 ～ H28. 1
2	40	食事は好みのものを取り入れて、楽しみの一つにしていたが、家族アンケート結果から満足度は半数であったことから、嚥下食にとらわれていた事で、基本的な食事というものが、変化してきているのではないか	理念にあるように、入居者の好みのものを提供したい、メニューのマンネリ化を防ぎ、嚥下食であっても見た目も楽しめる工夫を行う、また季節や行事食もこだわりを持って作るようにしていく	<ul style="list-style-type: none"> ・習慣計画書に季節のもの、行事のメニューを取り入れるように記入する ・見た目を楽しめるための彩りを考えたものにしました盛り付ける ・毎日昼食の写真を撮り啓発していく ・誕生日会・行事へ家族に参加してもらう 	H27. 1 ～ H27. 12
3	12	ホームの特徴を活かすことで、職員の稼働時間が延長になっているのではないかと、入居者への影響を及ぼさないように、効率的な稼働方法を考える	現状の様子を、再確認し問題点を出していくことで、改善策を見出していく	<ul style="list-style-type: none"> ・1～2月に掛け職員個々が意見を出し、まとめる ・3月には問題点をあげ、改善策を討議する（職員会議） ・できるところから実践していく 	H27. 1 ～ H27. 12
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。